

教育とは平和をまもる精神と人格をはぐくむしごと

みんなで学び合った「子どもの発達」のすばらしさ

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

みんなで考える教育のつどい2025

8月23日、「みんなで考える教育のつどい」が開催され、全
体と分科会にのべ100名が参加しました。午前の全体会では、
龍谷大学名誉教授の白石正久さんが「発達の中の煌（きら）めき
」『発達』を知り子どもの内面にせまる教育実践を考えよう」と
題して記念講演を行いました。午後は4つの分科会で、12本の
実践報告をもとに、熱心な討議がすすめられました。

戦後80年 「平和」を胸に

「今年は戦後80年です。今
年の6月23日（沖縄戦終結の
日）に私は糸満市・摩文仁の丘
を訪れました」と切り出した白
石さん。「沖縄は本土決戦の
『捨て石』とされ、住民を巻き
ます」と語り始めました。

子どもの心が見えるということ

白石さんは、東京・八王子な
どで開催された「かがくいひろ
しの世界展」を話題にしました。
故かがくいひろしさんは、発行
部数1000万部の「だるまざ
ん」シリーズの絵本作家で、実
は特別支援学校の教員。熱心に
「発達」を学んでいました。



講師の白石正久さん

展示会では、かがくいさんの
訪問学級担当時代のビデオ上映
がありました。最重度のタクマ
くんは、かがくい先生が持ち込
んだ電子ピアノに一生懸命手を
伸ばします。それを待つかがく
い先生。そしてタクマくんはポ
ロンとピアノを奏でました。こ
の息詰まる6分間について、白
石さんは、「かがくい先生は、
タクマくんの心が見えていたの
でしょう。子どもの心が見える
ようになるため、謙虚に学び続
けましょう」と話しました。

子どもの発達のみかた

白石さんは、「発達」の見
方について話をすすめました。
「発達とはなだらかに登って
いく道ではありません」「子
どもたちを見ていて気付くこ
とがありませんか。代わり映
えのしない時期をへながら、
急に変わったなと思える時が
くる」「それが発達の飛躍で
あり、新しい質が誕生すると
き」「1歳半、4歳、7歳が
幼児期の代表的な発達の『質
的転換期』です。そして9歳
の大きな節を迎えます」と説
きました。

子どもの認識のしかた

【可逆操作】を押さえよう

白石さんは、子どもの写真を
示しながら、発達の姿について
具体的に語りました。7カ月の
子どもの目の前には小びんと鈴
が置かれています。子どもは2
つのものを何度も見比べ、そし
て右手で小びんを取りました。
白石さんは、子どもが鈴にも手
を伸ばしていることに注意を促
します。「小びんだけで満足せ
ず、もう一つの心の窓がひらく」
「2つの心がひらき、こつちか
なあつちかなと、行きつ戻りつ
する」「これが子どもの発達に
とって大切な『可逆操作』の表
れです」と力説しました。
白石さんは、このあと、「可
逆操作」をキーワードにして、
「…ではない…だ」を特徴とす
る1次元の世界（1歳半頃）、

書記局の ひしじゅ

♪あなたを 思い出す
この店に 来るたび♪

荒井由実の「海を見ていた午後」。1974
年リリース。青春時代をユーミンと過ごした私に
とって名曲のひとつ。

曲中の「ト山手のドルフィン」は 静かなレスト
ラン♪は現存し、ユーミンファンの聖地です。
「ドルフィンソード」を注文すると、「海を見て
いた午後」が流されるらしい。曲を「存じなら
」トソーダ水の中を 貨物船がとある♪と、歌
詞とメロディーが頭の中で流れることでしょう。

今夏、「ドルフィン」に行く計画を立てたので
すが、旅程の都合で叶いませんでした。到達でき
たのは箱根。ドルフィンは、それより東に位置し
ます。箱根からの道中、初任者の時に引率した修
学旅行目的地の富士急ハイランド横を通過しまし
た。

3月に大学を卒業し、5月の修学旅行。生徒理
解もそこそこに、能天気に参加できたと、若きゆ
えの「怖いもの知らず」を痛感します。

さて、二学期は修学旅行を計画している学校も
多くあると思います。みなさんの学校の目的地は
どこですか。10月に修学旅行を控えている学校
は、すでに事前学習が始まっているのでしょうか。

事前学習では、大型の「ビーチイルカ」を使っ
てイルカショーの疑似体験。京都で人力車に乗る
旅行のそれでは、学校にあつたリアカーを赤と黒
に塗装し、人力車体験。ポニー乗馬では、ピーナ
ツボールに馬の首と頭、尾をつけ、それを台に乗
せて乗馬体験などなど。楽しかったな。

「良き思い出」は、未来へ踏み出す力の支えに
なります。今年の修学旅行も、沢山の「楽しい」
が、子どもの中に蓄えられますように。(久)

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス:fushoukyou1@mtb.biglobe.ne.jp

希望と納得にもとづく公正で民主的な人事異動の確立を！

介護・保育・健康、指導の継続性など、切実な事情を尊重せよ

府教委2026年度人事異動方針を発表

府教委は、8月22日の校長会で、2026年度の「人事取扱要領」等について説明をおこないました。府教委は、2026年度の「人事取扱要領」は、「大きな変更はない」と説明し、異動先についてグループ5に「学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）」が追加されました。

大障教は引き続き、障害児教育の専門性の低下や、教職員の業務負担増につながる人事異動、人事を通じて教職員の管理強化には反対の立場を貫き、「本人の希望と納得にもとづく人事」「公正・民主的な人事」を求めてとりくみます。

1. この間の「人事取扱要領」に関する経過

教員人事について府教委は、1998年度当初人事において「新規採用以来現任校4年以上勤務者」「現任校10年以上勤務者」を異動対象とし、それ以後も年限基準を段階的に短縮するなど、様々な改善を重ねてきました。2011年度当初人事では、府立学校を7つのグループに分け、障害児学校の専門性の否定につながる「新規採用後3校目までに、原則として異なる3つのグループを経験するものとする」との大改悪をおこなうと同時に、「予定者通知」の前に実施されていた「候補者通知」をなくしました。2013年度には、「1校における在籍期間」として「原則15年」を明記するなど、府障教（当時）の反対を押し切って、「人事取扱要領」の改訂を強行しました。教職員人事（実習教

員、給食調理員、技師・技能員）についても、03年度当初人事より「現任校7年以上」「08年度当初人事からは「4年以上」を異動対象としました。24年度当初人事からは、「3つのグループ」を「2校グループ（2校までに異なる2つのグループを経験する）」とする、

2. 人事異動に関する大障教の基本的考え

直轄強制人事異動のねらいは、教育行政が、学校や教職員への管理と支配をいっそう強め、政府や府教委が決めた教育政策を学校に徹底することにあると大障教は考えています。そもそも人事異動とは、ゆきとどいた教育を推進するために必要なべきものです。人事異動を特定の施策推進や教職員の管理統制・教職員削減・退職の強要などに

利用することは許されません。異動対象者の年限基準短縮に伴い、府立支援学校では、教職員の入替わりが早まり、引継ぎが十分にできない中で責任の重い仕事をこなさざるを得ない実態が長時間過密労働を生み出す要因のひとつとなるなど、人事異動の問題は、教職員の業務負担増に大きく関わってきています。

新規採用後2校目以降の教員はグループによる制限は設けない、と変更しました。（※採用選考テストにおいて、「特別支援学校枠」で採用された方は、支援学校間の異動になります。（中学部・高等部は2018年度当初採用者以降）

3. 人事調書記入にあたっての注意事項

人事調書は、人事異動を前提に作成されています。それを踏まえて記入しましょう。特記事項には、「異動希望はない」「肢体不自由校以外への異動は希望しない」など、自分の意思を明確に記入しましょう。特記事項に書き切れない場合、

校長・准校長による本人ヒアリングでは、あいまいな言い方は避け、自分の意思を明確に校長・准校長に伝えましょう。重要なことは「校長具申の内容」です。校長・准校長に対し、本人希望を尊重した校長具申を求めましょう。昨年度は、2月28日に「異動予定者

4. 人事ヒアリングについて

校長・准校長による本人ヒアリングでは、あいまいな言い方は避け、自分の意思を明確に校長・准校長に伝えましょう。重要なことは「校長具申の内容」です。校長・准校長に対し、本人希望を尊重した校長具申を求めましょう。昨年度は、2月28日に「異動予定者

時は、速やかに学校長に申し出て、調書の差し替えをおこないましょう。人事調書の作成においては、データ入力を基本とし、難しい場合は手書きによる作成も可能としています。

「別紙にて添付します」と記入し、添付書類を校長・准校長に提出しましょう。保育、介護や健康上の理由で、人事異動を「希望する」「希望しない」場合は、その内容をていねいに記入しましょう。人事調書の提出後に事情・希望が変わった

「別紙にて添付します」と記入し、添付書類を校長・准校長に提出しましょう。保育、介護や健康上の理由で、人事異動を「希望する」「希望しない」場合は、その内容をていねいに記入しましょう。人事調書の提出後に事情・希望が変わった

教育のつどい大阪2025 中河内ブロック

全体会

日時：10月11日（土）
13時開場 13時20分開会

記念講演：

「大丈夫だと思える場」を育てる
～対話を通して見える世界～

講師：永井玲衣さん（哲学者・作家）



現地企画：学校の日常を表した寸劇、青年教職員によるエイサー、
現地からのリレートーク

※詳しくはビラをご覧ください